

新年の挨拶

令和2年1月6日

学長 小林 淳一

皆さん明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。皆さんはどのようなお正月を迎えられたのでしょうか。

お正月ですから少し面白いお話をします。休日、秋田にいる時は秋田市内を約1時間半かけて散歩します。その途中に誓願寺と言うお寺があります。山門の入り口に看板があり何かが書いてあります。普通お寺ですと仏教の教えやためになることが書いてあるのですが、ここは少し違ってきます。

紹介しますと、

- ・昭、平、令を貫いて、ポーっと生きています。
- ・私の嫌いな人は、どこか私に似ている。

どんな住職さんなのか気になりますね。

私は長野県出身ですので、あきた長野県人会に入っています。年2回ほど例会があり、色々な人の講演があります。ある時宮下会長（元秋田赤十字病院医院長）が講演され、健康寿命を延ばすためには、生活習慣病などへの対応よりも、加齢によって起こる事への対策を最優先すべきと言う話をされました。

その話の中で、

「18歳」と「81歳」の違いは何かを笑点流に答える問題；

（実際に笑点で放映された内容です）

- ・道路を暴走するのが「18歳」、逆走するのが「81歳」
- ・心がもろいのが「18歳」、骨がもろいのが「81歳」
- ・恋で胸を詰ませるのが「18歳」、餅でのどを詰ませるのが「81歳」
- ・偏差値が気になるのが「18歳」、血糖値が気になるのが「81歳」
- ・まだ何も知らないのが「18歳」、もう何も覚えていないのが「81歳」
- ・自分探しの旅をしているのが「18歳」、出かけたまま探されているのが「81歳」

皆さんはまだ若いですから、気にならないかも知れませんが、笑い事では済まされない感じがします。

【開学20周年】

さて、昨年は開学20周年の節目の年でした。20周年記念行事として、大村智先生による公開講演会の開催、ホテルメトロポリタン秋田での20周年記念式典・祝賀会の開催、20周年記念誌の発行、20周年記念募金の創設、県大・読売講座を開催しました。いずれも皆さんのおかげで、成功裏に終わりました。

特に「県大・読売講座」の開催に際し、読売新聞社には大変感謝しています。橋本五郎氏との対談や本学教員4人による講演、全てにおいて毎回紙面に大きく取り上げてもらいました。県民に本学の先生を知ってもらうことを通し、本学への理解が深まったと思います。来年度も続ける予定です。

【20年の節目】

歴代3代の学長を中心に大学づくりを進めてきました。その結果、日本版大学ランキングでは70位前後に位置し良い評価となっています。私はこの状況を踏まえて、積極的に地域に貢献できる大学として、「信頼され尊敬される」大学を目指しています。もちろん以前からすでに地域貢献を行っており、成果もたくさん出ています。しかし、貢献は点であり、線や面にはまだ至っていません。色々なニーズに応えていくのは大事ですが、ニーズに応えるだけでは成果はまだ点です。成果を線や面に広げるためには、秋田や地域の将来を考え、大学自らが課題を設定し、組織を上げて推進することが必要です。それに向かって、現在3つの大きなプロジェクトを進めています。

一つ目は、「スマート農業」プロジェクトです。これはSociety 5.0に沿った新たな農業を実現するものであり、秋田の農業を強く特徴づけることに繋がります。第3期中期計画に盛り込まれていて、農工連携拠点センターの基本構想を終了し、実行計画段階に入っています。今年、この実行計画案に対し県や議会でのご意見をいただき、それを反映した形で計画をまとめる予定です。一方、課題解決には、農工連携が必須であり本学の両学部が共同で取り組む必要があります。すでに技術課題に対しては、学長特別研究でいくつかの研究を進めており成果も出てきています。本プロジェクトは、農工大学としての強みを活かすことができます。また、技術課題解決だけではなく、人材育成も同時に取り組みます。学生はもちろん、社会人教育にも力を入れます。このプロジェクトは、大学だけではできないので、農家、県の行政、試験場、さらには情報系企業や農業機械メーカ、銀行も絡めていかなければなりません。その結果、本プロジェクトは、秋田県の農業全体あるいは情報産業に影響を与えますので、この成果は自ずと面での展開となります。

二つ目は、「航空機の電動化」プロジェクトです。一昨年から計画を進めてきましたが、ようやく内閣府の事業として採択され、今年から秋田大学、産業界、県と共同でスタートさせることになりました。秋田県の新しい産業を作り出すことを狙っていますので、大変ハードルの高いプロジェクトです。プロジェクトリーダーには大手メーカーに勤務されていた方を置き、外部の力も借ります。新しいモータ開発のために本学としては、客員教授を迎えます。このプロジェクトを通し、秋田大学との連携を推進し秋田の産業を支える人材、さらには新しい産業を取りまとめられる人材を作りたいと考えています。またここで開発された技術をしっかり地元に着させるために、技術伝承のための教育にも力を入れます。

三つ目は、まだ計画段階ですが、秋田は風力発電を中心とした再生可能エネルギー発電が日本一ですので、再生可能エネルギーを使った新たな産業の創出、地域社会の発展、サステナブル社会の実現を目指した新たなテーマ作りをシステム科学技術学部で検討しています。こちらにもメンテナンス人材育成や発電会社との共同事業による地域貢献を幅広く進められるようにしたいと考えています。

この他、地域課題に対して大学として進めるべきテーマがありましたら、是非提案してください。このようなマインドを持つことが大学をよくする原動力になります。

最後になりますが、皆様そしてご家族の皆様のご健勝を祈念し私の新年の挨拶いたします。

以上